

岩見沢市

緑の相談コーナーだより

N.O. 320 2012. 2. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “カヤ”（榧・栢）

～この木の材で作った碁盤は一級品～



Torreya nucifera SIEB et ZUCC.
カヤ

カヤは、イチイ科カヤ属の常緑高木で、高さは 20 ~ 30 m、直径は 2 m に達するものもあります。雌雄異株で、雌株につく実は長さ 2 ~ 3 cm の楕円形で、翌年の 10 月頃には緑色の外皮が紫赤色に変わり、熟すと外皮が裂けます。外皮を腐らせて除いた楕円形の種子は、いって食べたりします。ふつう常緑の照葉樹林の中に散生していますが、岩手県、山形県以南、四国、九州、朝鮮済州島などに分布します。北海道には、この木の仲間のハイヌガヤがあり、主に多雪地帯の日本海側に分布し、群生していることがあります。高さはせいぜい 2 ~ 3 m くらいにしかなりません。

カヤの木には雄木と雌木とがありますが、その判別の仕方について【大和本草】では「カヤ、モミに似て葉先とがりて針の如し雄木は枝上に向ふ、実のらず、雌木は横に垂る」とあり、枝が天に向かって上を向いているのが雄木で、横に下垂するように伸びるのが雌木だと記されています。また、実生繁殖の時には、種子の形状から雌雄を分別するそうで、種子の球形のものからは雄株を、長めの種子からは雌株が生産されるといわれます。

カヤの名の語源ですが、【日本釈名】によれば、「カヤとは蚊遣りに用ふる故なり」とあり、葉や材をくべて蚊やりをするからだという説がありますが、これは俗説で、古名カへの転訛といわれます。

材は、辺材と心材の区別が不明瞭で、黄白色で香りがあり、年輪が狭く比重は 0.5 と針葉樹の中では重い方ですが、加工しやすく保存性が高い特徴があり、水湿にも良く耐える良材とされます。特に、大木から取った無節の正目材は油氣が多く、弾力性

があります。こうしたカヤ材で作った碁盤は、石を打っても肩がこらず、盤面もしばらく置けばへこみが再び元に戻る特性があって、カツラ・イチョウの碁盤もありますが、カヤの碁盤は最高級品といわれます。しかし、大木になるには数百年もかかるため、近年では貴重な資源となっています。カヤはこのほかに、風呂桶などの浴室用材や彫刻材、算盤の珠、建築材では床柱に使用されます。一方果実は、十二指腸虫の駆除に効能があるとされ、薬用に用いられてきました。また、胚乳に多量の脂肪油が含まれ、食用油や整髪油、塗料などに利用されます。

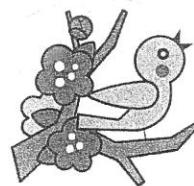
榧の木に榧の実つくさびしさよ 北原白秋

ふくろうの宵々なきし榧の樹の

うつろもさやに照る月夜かも 長塚 節



公園だより



バラ園

昨年の岩見沢は、師走に入ったとたんに雪降りの日が続き、12月としては記録的な積雪量となりました。しかし、年が明けてからも降雪は続き、毎日の除雪作業に疲れてしまった人が多いことと思います。いつもの年ですと、2月は積雪量や寒さの極値を記録するのですが、今年は1月中に自衛隊の派遣を要請する豪雪になってしましましたが、2月はどうでしょう？これ以上、バラや市民生活に影響がないことを祈りたいものです。バラは、-5°C以下になると寒さの害を受けやすいと言われますが、雪の中はいつも0°C前後なので、積雪が多いと防寒の心配はしなくてもよいのですが、雪折れなどによる傷みが気になるところです。

♥ 今月のバラ園からの一口メモは、バラの利用法の続きです。バラは古くから、薬や香料として用いられてきましたが、今でもブルガリアなどではオールドローズの仲間のローズ・ド・マイと呼ばれるピンクの八重咲き種が利用されています。日の出と共に開き始めた花を摘み、水を加えて蒸留すると芳香油が得られます。北海道では、ハマナスの八重を利用して少量作られています。香りの強いパパ・マイアンやブルームーン、ホワイト・クリスマスなどで自作するのもおすすめです。

室内公園色彩館では、サザンカ、ヤブツバキの花が終わり、ハナミズキの蕾が春の日差しを待ちわびているところです。しかし、壁面のツルバラが咲き始めており、特に、淡いピンクの大輪花で、香りも良く、上品なオールドローズのスーザン・ド・ラ・マルメゾンが今を盛りに咲き誇っています。また、一重咲きのカクテルやモッコウバラもほころんできました。

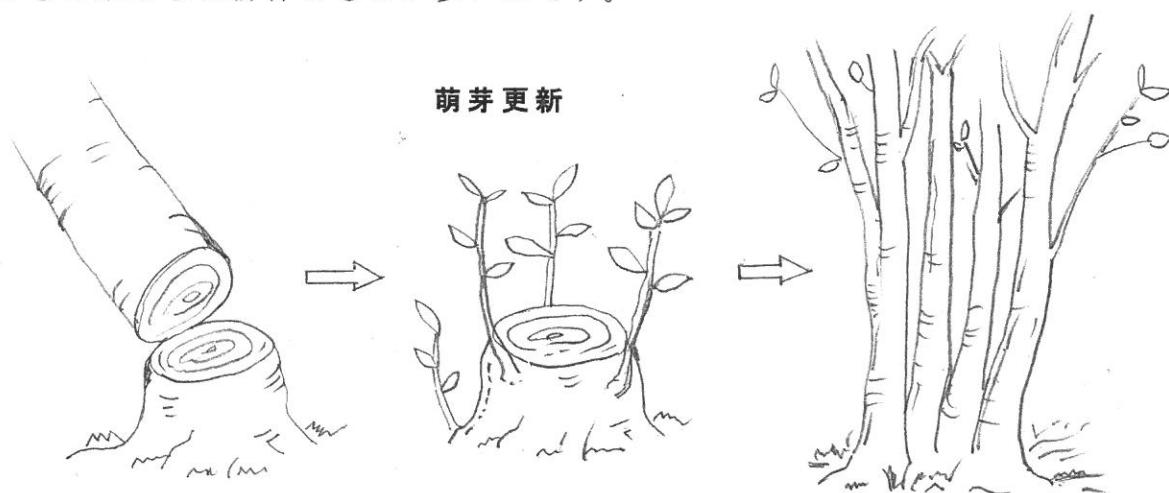
南国温室では、四季なりミカンが色づき、たわわに実っており、パパイアの実が次々に大きくなってきました。アンスリュウム（オオベニウチワ）やストレリチア（極楽鳥花）、カラーの花々が咲き続け、ここは、常夏の別世界です。

相談日記

問 近くの雑木林を散策していて気づいたのですが、この樹木は株立ち（根元から何本か幹が分かれて生えている木）した樹木が多いことに気づきました。公園などに植えられている樹木はほとんど一本立ちなのに、同じ種類の樹木でも近くの森の中のものは、どうして株立ちになっているものが多いのでしょうか？その訳などを知りたいのですが。

答 人々が生活してきた近くの森を里山などといいますが、このような森は、昔から人々が樹木を色々なかたちで利用してきた森といえます。この里山の雑木林では、人々が主に薪炭材や生活するための材料を得るために、繰り返し樹木の伐採が行われてきました。普通 20 数年に 1 回とかの割合で切られ、その根元から伸びてくる数本のひこばえは、新しい樹幹として育てられます。このような森の再生方法を萌芽更新といいますが、里山の雑木林は人が手を入れて何度も再生してきた森なのです。樹木が切られたり衰退したりすると、今まで眠っていた芽（休眠芽）が起きたしたり、傷を直そうとしてできた癒傷組織から新しい芽がつくられて、再生を図ろうとします。こうして再生した樹木は何本かの幹が分かれた株立ちの樹木になるのです。樹木は種子以外にも、こうして若返る方法をもっています。樹木の幹や根株には、いざとなった時に目覚めて新しい幹や枝になる芽が隠れているのです。

一方、種子から発芽した樹木が、一度も切られることがなかったら、きっと幹が 1 本立ちの樹木の多い森になっていたのではと思われます。ですから、公園や街路樹などに植栽される樹木は、種子から育てた苗木を用いることが多いので、同じ樹種でも 1 本立ちの樹幹のものが多いのです。



雑木林の株立ちの樹形は人がつくった



細長い花茎に多くの花が咲く～オンシジュウム 花言葉 神秘的な愛

ラン科オンシジュウム属の着生ランで、北はメキシコから西インド諸島、ブラジルにかけての中南米一帯に分布しています。自生地も低地から標高 2000 m 以上の高地にまたがるため、750 種以上の原種があるといわれ、ラン科ではデンドロビュウム属について大きな属となっています。一部を除いて大部分のものは栽培しやすいものが多く、最近東南アジアから豊富に輸入され、町の花屋さんでもよく見られる親しみのあるランです。オンシジュウムはギリシャ語の *ogkos* (こぶ) に由来し、唇弁の基部に、こぶ状の隆起を持つことに因んでいます。植え込み材料はミズゴケがよく、春から秋までの生育期は、半日陰で管理し水をやや多く与えます。冬期は日に当て、カトレアよりも水を控えぎみにします。厚葉、棒状葉系は充分日に当て、乾かし気味にして育てます。また、剣葉系は比較的高温多湿を好みます。植え替えは新しいバルブが完成し、新根を出しはじめた時が最もよい時期です。

2～3月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介



♣ 土壌と肥料管理のポイント

日時 2月 22 日 (水) 13:00～15:00

講師 農業改良普及センター 普及指導員 さん 定員 40人 参加料 無料

✿ 第3回「岩見沢洋ラン展」

日時 2月 23 日 (木) 9:00～26日 (日) 15:00

場所 室内公園「色彩館」ロビー 主催 いわみざわ洋ラン愛好会

♣ 洋ラン栽培の楽しみ方

日時 2月 26 日 (日) 13:00～15:00

講師 北海道蘭友会理事 阿部 春樹 さん 定員 40人 参加料 無料

♣ 家庭果樹の楽しい管理

日時 3月 4日 (日) 13:00～15:00

講師 中央農業試験場 内田 哲嗣 さん 定員 40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで